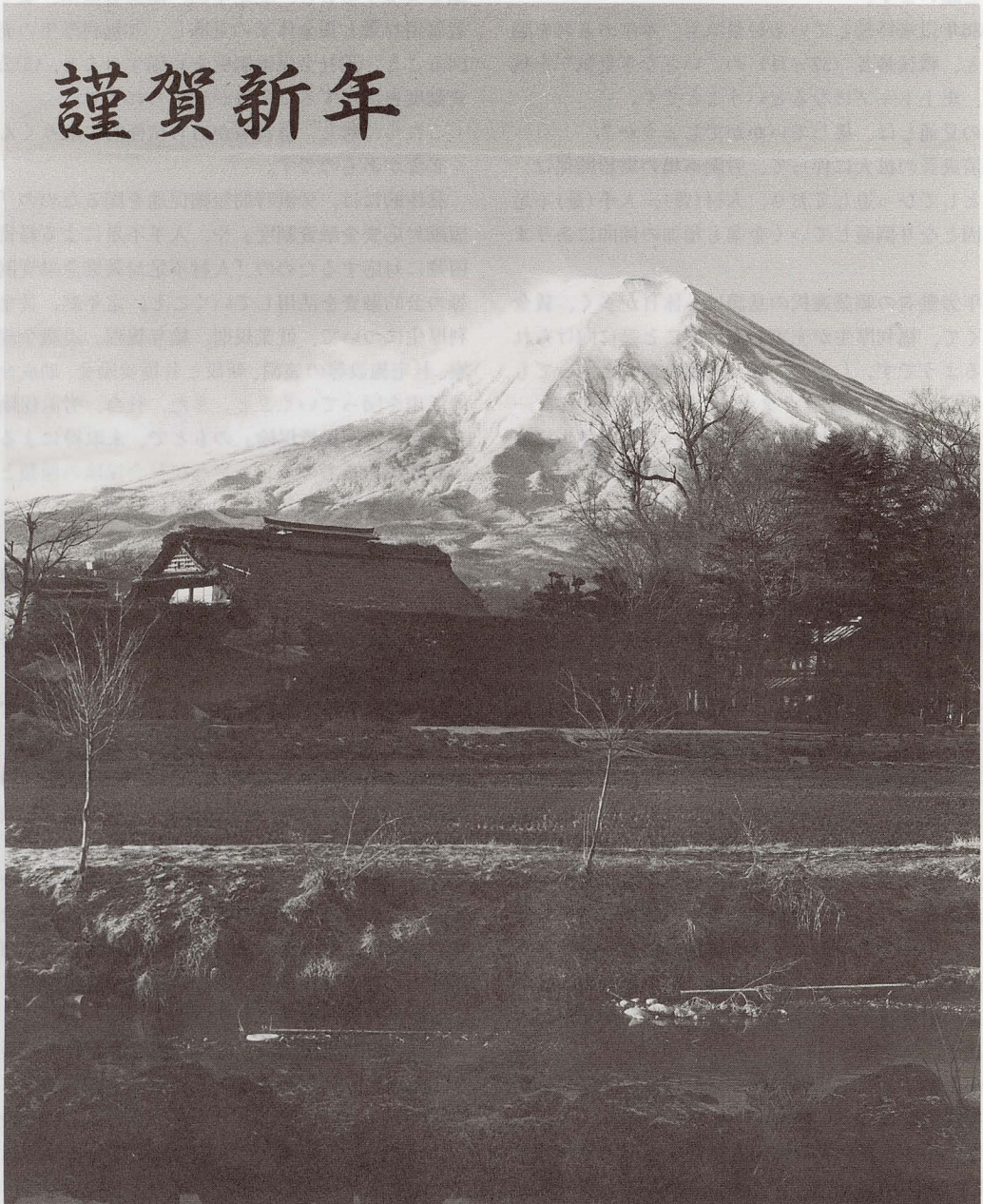


東京都社会保険労務士会 会報

千代田・中央支部

事務局 〒102 東京都千代田区麴町3-12 矢崎麴町ビル 6階 大槻経営労務管理事務所内
東京都社会保険労務士会 千代田・中央支部 ☎03(5275)2801 発行人 大槻哲也

謹賀新年



富士山

「今年もまた」「今年こそ」 研鑽と飛躍の年に



支部長 大槻 哲也

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、「今年もまた」、良い年であってほしいと願います。

1986年以来持続している好景気も、本年の8月を超えると、戦後最長（57ヵ月）の“いざなぎ景気”を抜いて、史上トップになるということです。

その見通しは、果していかがでしょうか？

経済成長の拡大に伴って、労働市場の需給関係は、依然としてひっ迫しており、人材（質）、人手（量）不足が原因となり倒産していく企業も増加の傾向にあります。

若年労働者の職業選択の意識は、休日が多く、賃金がよくて、福利厚生が充実していること等に向けられているようです。しかし、賃金が高いからといっても、3K（キケン、キツイ、キタナイ）の職場環境では、一寸立ちどまるが、やがて去って行き、5K（さらにカエレナイ、クライ）ともなると、素通りされてしまうのが現状の様子です。

出生率も低下の傾向にある等、深刻な要因を背景に、「人手不足を何とかしてほしい」、「外国人労働者に期待したい」等々の悩みや相談ごとが、社会保険労務士や税理士等につづけられてくる件数が増えているということです。

経営者から『顧問税理士に相談したところ、人にかかわる（人事、労務等）ことは、社会保険労務士の専門分野であるから、そちらへ相談するように言われた』といって、アドバイスを求められた会員もおられます。

ところで、世はまさに転職の時代です。労働省の雇用動向調査によると、特に20歳代後半から30歳前半の転職が活発に行われ、大企業から中小企業へ移動した者より、中小企業から大企業へ移動した者の数が多く、この差が拡大しています。これは、中小企業の人材が大企業に引き抜かれる等流出していることがうかがえます。

中小企業にとって、人材の確保策は実に深刻であり、重要な課題となっています。

今や、中小企業は新規採用を期待する前に今いる人（在職者）を大切に、定着率を高めることを、最優先すべき時季にあることを認識しなければならないと

思います。

その対策として、①週休2日制の導入等労働時間短縮を実現すること、②定年制、高齢者雇用、女子労働者雇用対策と賃金体系の見直し、③福利厚生の充実を図ること、④社会保険制度を完備すること、⑤公的融資制度を活用すること等が挙げられます。

これらに対し、経営者が自ら積極的に取り組んでいく必要があるのです。

具体的には、労働時間短縮促進を図るための「時間短縮対応資金融資制度」や、人手不足による経営上の困難に対応するための「人材不足対策緊急融資制度」等の公的融資を活用していくこと。定年制、賃金や福利厚生について、就業規則、給与規程、退職金規程、寮、社宅施設等の整備、新設と各種奨励金、助成金制度の活用を図っていくこと。また、社会、労働保険に関しては、「国民皆保険」のもとで、未取得による無保険状態にある者のチェック及び社会保険の種類とその適用区分を法令に基づき、適正に管理していくこと等を、推進していくことです。

これらに経営者が取り組むことは、なにかと複雑で困難を伴うことが予測されます。そこで“助っ人”役として、人事・労働問題の専門家たる社会保険労務士の登場が、必ず必要となるのです。

社会保険労務士は、労働省の委託事業である“時短カウンセラー”として企業の時間短縮に、また、東京都福祉局の依頼による“年金に対する課税の基礎知識”“健康で生きがいのある生活設計”“年金生活相談”等の業務にも対応していくことになっております。

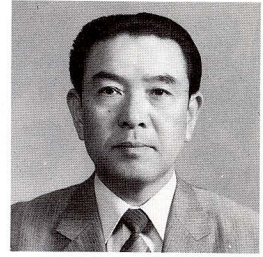
社会保険労務士が、これらの職務を手際よく全うしていくためには、日頃の研鑽が大切であることは言うまでもなく、常に支部及び東京会等の例会、研修会へ出席することによって、新しい知識や情報を得ていくことが不可欠の要件だと思います。

それには、支部例会、研修の内容等をより一層工夫し、充実していく必要があると考えております。

「今年もまた」「今年こそ」の決意のもとに、会員が一同団結して、研鑽と飛躍の年にしていこうではありませんか。皆様にさらなるご協力をお願いして、年頭のご挨拶といたします。

年頭のご挨拶

政連
支部会長 沢崎 昇



謹んで会員みなさまに年頭のご挨拶を申し上げます。

平成2年も多事多難のうちにあわただしく過ぎ去り、ここに希望に満ちた平成3年の初春をご家族ともどもご健勝にてお迎えになられたことと心からお慶びいたします。

昨年は外に世界の石油確認埋蔵量の65%を有するという中東での湾岸危機があり、東西対立を軸として回転してきた戦後の欧州がドイツの統一をもって一応終幕を迎え、いよいよ秩序ある新時代に突入したかの感があります。願わくば、アジアにも1日も早からん共通の価値観の醸成が期待されているようにも思われます。

内には金融の自由化、株価の下落、地下上昇の頭打ち等経済環境の変化、158ヵ国と国連、欧州共同体の代表を迎えての「即位の礼」、そして2月には衆議院議員の総選挙等がありました。この衆院選においては会員みなさまのご協力により、千代田・中央支部政治連盟支部会にはじめての「広報委員会」と「財務委員会」とを設置し、十分な活動ができました。これも偏に会員各位のご支援の賜ものであり、感謝を申し上げます次第であります。

さて、先進諸国はこぞって国民的資源の約30%を投入するまでに発展してきた社会保障の制度は、今や人々の生活にとって必要不可欠の基本的・普通的要素となっています。

わが国の医療制度は明治8年(1875)に医制がはじまって以来今日まで110有余年を経過し、社会保険(労働保険)という制度が紹介されはじめたのは明治14年、社会保険の中核たる健康保険法の公布は大正11年4月22日、厚生年金保険法(労働者年金保険法)は昭和16年3月11日の公布であった。昭和36年4月1日の国民皆保険・皆年金はわが国の社会保障制度の歴史に燦然と輝く飛躍的出来事であり、現在の国際的に遜色のな

い今日の発展を見るとき隔世の感を禁じ得ない。

本年も制度のさらなる発展のために、老人保健法の改正にむけての検討、老人福祉法等の改正による高齢者保健福祉推進10ヵ年戦略のための保健・医療・福祉サービスの一体化とその拡充の方策、地域型国民年金基金の創設、学生の国民年金適用等々問題は山積しております。

高齢化の進展をはじめとし、流転して止まない経済、社会のさまざまな変化に対応しつつ21世紀にむけて、真に豊かな高齢化社会の実現、長寿を喜べる社会の構築こそが、今日的社会保障の重要課題ではないでしょうか。

昨年は他支部のこととは申せ、綱紀の問題で疑惑を招く事態が発生したことは誠に遺憾であり残念な出来事でありました。

18世紀の歴史家ギボンが「ローマ帝国滅亡史」で、あれだけ繁栄を誇ったローマ帝国が滅んだ原因も外部ではなく、自分たちが世界の中心で世界は自分を中心に動いているという傲慢さが腐敗を招き自ら滅亡の原因をつくったことを述べている。今更ながら肝に銘記すべきことではあるまいか。

今年は「未」の年。「羊頭狗肉」のたとえもあるが、法律により与えられた業務は一流、しかしこれを司る社労士が二流では、品位の保持も、自覚も責任も、質的向上も望むべくもなく、社労士会の発展においておやではなからうか。

羊が獣類中の君子として大勢が“群がって”共同一致した行動をするが如く、今こそ社労士の汚名返上のための努力精進が求められているように思う。

新しい年の始めに、社会保険労務士会の益々の発展と会員各位のご隆盛とご多幸とを心から祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。



合唱気違いの 独り言

日鐵溶接工業健康保険組合 牧野武夫

筆者は写真左端▼



そもそも、合唱を始めたのは昭和20年代前半の戦後間もない頃で、私はたまたま自宅近くの教会に行っていた。教会には県内で最もレベルが高い中学出身の同年配の青年達が来ていた。彼等はオルガンの周りに集まって賛美歌の楽譜を見ると即座に歌ってしまう。そのグループには市立女学校の少女達もいて一緒に歌っていた。

同年輩の青年達が楽譜を見てすぐに歌える（初見がきくという）のは羨ましく妬ましく、かつ、口惜しかった。これを眺めて、「女性にモテるには楽譜が読めること」と早合点して合唱を始めたのだから、動機はなんとも不純である。

ところが、麻薬というか、娯薬というべきか、この道に入った途端、その魅力とでもいうべきものにとりつかれてしまった。

明治大学の裏の小学校で歌っていたときのこと。真冬というのに暖房もなく裸電球がひとつぶら下がっているだけの木造の講堂であった。薄暗がりの中から響く混声合唱とアコーディオンの響きは清潔で美しかった。楽譜もよくわからないままその列に参加したとき、その音は私の胸に浸透し、私の胸腔はビリビリと鳴り、隣の人の胸との間に大きな風穴があいたような感じがした。同時に床も天井も壁もすべてが鳴っていた。身体を駆け抜ける音の快感に酔いしれた。

とき、あたかも、うたごえ運動が全国を吹き荒れていたから、ロシア民謡などを随分歌ったが10年ぐらい経つと少し飽きてきた。

その頃から、知人に勧められて宗教音楽を歌うようになった。オーケストラ伴奏でバッハやヘンデル、モーツァルトの作品を演奏するのは至福の

極みであることを知った。こうして、国内では約100回ぐらい舞台に立ち、国外（ヨーロッパ）でも20回ぐらい歌った。

歌い始めていつか40年経った。その間、多くの友人ができた。結婚したのもいるし重役になったのとか、教授になったのもいる。昔のままの職人もいる。

40年歌ってきたといっても、それが上手に通じるとは限らないのがこの世界である。年をとると正確な高さの音が出なかったり、リズムが狂ったりする。合唱は集団の遊びだから変な音を出せばハーモニーを乱して他人に迷惑をかけることになる。

それに、音楽の世界は奥が深い。いくらでも勉強することがある。

歌の文句ではないが、「もしもピアノが弾けたなら」は合唱をするアマチュアの願望でもある。ピアノが弾けないから生まれたときからの声を頼りに歌い続けてきたのだが、もうここまできたら死んでもやめられないと思っている。

だから、友人達には「俺の葬式には、バッハのマタイ受難曲から終曲を歌ってくれ」と普段から頼んでいる。

研修旅行を 顧りみて思う こと

広報委員 吉瀬君江



紅葉には少し早い10月12、13日、千代田・中央支部の研修旅行が川治温泉で開催されました。私用で一足遅れて川治駅に降りた頃、周囲は夕暮れ。温泉街といえば、ネオンきらめき駅前から旅館が立ち並ぶ街と思って疑わずにいましたので、この駅前の静かさに果たして宿にたどりつけるのだろうかと心細く、地図を頼りにやっと金型かわじ荘にたどりつくくと、研修は終了してしまっており、もうすぐ懇親会が始まるとのこと。

少し狭いかなと思う広間で、山菜料理に舌つづみ、お酒も少し入る頃、普段あまり会話のない人達とも話に夢中。ワイワイガヤガヤと時間もすぎ、翌朝は起こされるまでグッスリと休み、さあこれから今日1日ゆっくりと鬼怒川沿いを、散策しながら帰りましょうと窓の外を眺めれば、雨です。それでも何とか見学して帰ろうというグループ、ドライブしながら小雨にけむる山合を帰る人、会津経由で列車の旅を楽しみながら帰る人達と、朝食後、解散となりそれぞれ帰宅の途につきました。



帰宅後、広報委員である私は、今回の研修旅行記を受けもつことになっていたのですが、講義内容はテープで聞き、何人かの人に会場の雰囲気をつたねたりと、それからが大変でした。講師は、豊岡来実先生。テーマは「新入社員の礼儀と作法・新人類との対話法」です。感想のなかに、両脇が仲

よくなることが一度もなかったとおっしゃった方がおられます。テープを半分ほど聞いているとなるほど思い当たります。会員のなかでは一番新人類に年が近い豊岡先生の若さあふれる講義に、諸先生方の顔が目に浮かぶような気がしました。そして研究内容に私自身を思い当たり、ふとテープを止め考えてしまいます。

以下、先生があげられた最近の新入社員の特徴5点です。第1に声が小さい、返事がない。第2に、意見の発表ができない。ポイントをしばる話ができない。第3にこちらから心を開かなければ応じない…。第4にアクションが遅い、指示なしでは動けない。第5に共同作業が不得手、個人プレーが得意。以上の5点、思い当たるのです。我が息子、まだ中学生ですが、先生のおっしゃるとおりです。電話のおしゃべりは得意です。用事を頼めば返事がない、なかなか行動しない、一つ頼めばそれで終わり。これでは息子が社会人になる頃に超新人類になってしまうのではないかと母親として少しばかり不安になりました。

しかし、さてよ、まだテープは半分、残り半分で何かよいヒントがあるだろう、我が子のためにももう少し先を進もうと思いなおして、再度テープを最後まで聞き終わりました。さすがにクルミちゃん（失礼ながら先生をクルミちゃんと普通よんでいますので）、よく若い人のことをつかんでいると思います。基本を教えて、相手の立場で話すこと。気長に待つこと。やらせてみる。話させてみる。以上が新人類との付き合い方ということです。大変困難な課題ですが、この研修内容を家庭教育にもとり入れて、息子達が超新人類と呼ばれないようにしようかなと思いました。

労働研修所の 研修に参加して

第一部会長 金網 久夫

去る8月、労働省の労働研修所研修に参加した。受講者は全国から41名集まった。

年配者が多かったが、その中には開業して1～2ヵ月という会員も数名いた。この時期は、算定期間とも重なって、事務処理の忙しい時期であるが、開業したばかりの者は、時間があって参加しやすいのかと思った。

金平労働研修所長と、中西連合会長の挨拶の後、各分野の専門家から講義があった。

松本政策調査部長は、今後の労働政策の重点事項として点数あげ、高齢者対策、時短対策、女性対策を強調された。自分の仕事の視座を確認した。

当支部の研修会でも講演された国民金融公庫の金谷調査部長は、これからは「感性の時代」となるといわれた。

和田労働経済課長は、労働白書の要点について話され、研修中発表された経済白書もいっていたが、賃金格差の拡大問題について触れられた。

高齢者雇用対策課の田中課長補佐は、高齢者の雇用対策について、改正された高齢者雇用安定法の話をした。継続雇用制度導入奨励金制度が新設されたが、10人未満の事業所が対象になっていないので、質問すると、10人未満の事業所は数が多く、予算の都合で対象に入れなかったといわれた。10人未満の事業所こそ、労働省が助成してほしい事業所なので、今後の改正を希望した。

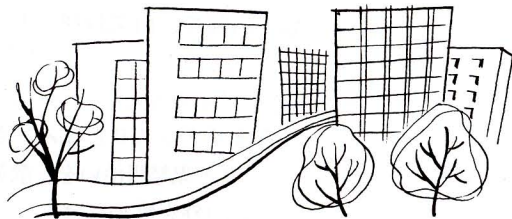
外国人雇用対策室の前田室長からは、外国人労働者を取りまく諸問題について聞いた。入管法改正に伴い、不法就労者を雇用した事業主の責任が強まったが、人手不足に悩む中小事業主にとっては、外国人労働者は大きな雇用源の1つである。労働省としては、単純労働者の受け入れについては十分慎重に対応するという閣議決定がその基本原則であるが、研修制度の導入により、新しい展開を考えているように感じた。

社会保険労務士の担当課長である渡辺労働保険徴収課長は、社会保険労務士の原点を重視するようといわれ、その歴史を話された。全国の会員についての資料によると、この12年間、開業会費の増加と勤務会員の減少の傾向がある。各単会の会員数の地域格差は大

きく、また東京では勤務会員が多いが、山梨では3名しかない。当支部の開業会員数は、全国の単会で、19番目に当たる。試験の受験者は平成になって増加していることがわかった。労働保険の未適用事務所の適用促進について協力を依頼された。

興味があったのは、西武百貨店の難波所沢支店長の話だった。氏は、ご自身の属する企業である百貨店の現状と課題について話されたが、私の仕事（事務所）との関連性を感じながら聞いた。

百貨店は歴史が長く、看板、貫禄、勘の3カンで経営されている。しかし、この長い経験が企業の活性化を計る場合、問題となる。今の社会は経験主義では変化に対応できない。競争は複合化している。百貨店（小売業）は、悪くて前年比5%減、よくて15%増の売上である。失敗の体験はない。故にどうしても管理型になる。お客中心ではない。オペレーション中心となる。少売の本質は何かと考えると、人間産業であり、対面販売である。第一線中心の産業である。情報は下から上へ来るべきである。そして、チームワークの産業であり、これからは目標発見能力が大事であるといわれた。



東芝の子会社である日豊興産の小林取締役は、高齢者の活性化対策について話されたが、その中で、年配者は、力作業以外の仕事は、若い者に優るとも決して劣ることはない、といわれた。

経営ジャーナリストの井口氏は、労働条件の新3Kとして、快適、休暇、高給をあげられたが、これらはみな、コストがかかるものである。改善のために痛みがあるのは止むを得ない。

日本労働研究機構の亀山氏は、労働時間の個人化時代という点から、会社が一案に、誕生日休暇とか、結婚記念日休暇を設けるのではなく、自分が好きな日に休める「自分記念日」を設けるのはどうかといわれた。事務所では誕生日休暇を設けているが、その日はむしろ休みではなく、同僚に祝ってもらいたいという職員もいるかもしれないので、今後の参考にしたいと思った。

研修内容、研修施設とも、充実した4日間であった。この研修の成果を出すよう努めている日々である。

街頭相談コーナーが 開設されました

1. 設置場所 地下鉄銀座線上野駅前（丸井デパート地下入口脇）
2. 開設期間 平成2年11月13日(火)午前10時より午後4時まで
3. 相談員人数 役所関係者 3名
保健相談員 2名
会 員 10名（台東支部4名、千代田・中央支部6名）
千代田・中央支部では次の方々にお願いしました。
（順不同）
金綱久夫、永島セツ、柏木弘文、笹田弘充、山崎雅也、渡辺和洋
4. 相談者 41名
5. 血圧測定者 210名

労働保険説明会が 開催されました

- 第62回 平成2年7月3日
講 師 中央労働基準監督署
加藤労働基準監督官
倉下給付調査官
会 員 藤原久嗣、永島セツ
出席事業所 7
- 第63回 平成2年9月4日
講 師 中央労働基準監督署
尾畑労働基準監督官
及川給付調査官
会 員 国岡喜久、飛沢孝治
出席事業所 12
- 第64回 平成2年11月9日
講 師 中央労働基準監督署
大沢労働基準監督官
新井給付調査官
会 員 内藤治雄、石川英豊
出席事業所 11

委	員	会
報	告	



＜総務委員会＞

第7回 正副支部長・委員長会

10月12日、東部金型工業健保組合保養所「金型かわじ荘」において開催。

(1)報告事項

- イ. 東京都社会保険労務士会諸会議の結果について
- ロ. 部会並びに委員会の活動状況について
- ハ. 交歓懇親会（算定打ち上げ）の収支報告について
- ニ. 労働保険指導員交歓懇親会の収支報告について

(2)協議事項

- イ. 第7回正副支部長・委員長会の開催について

ロ. 第4回研修会並びに交歓懇親会の役割分担について

第8回 正副支部長・委員長会

11月14日、東京会・会議室において開催。

(1)報告事項

- イ. 東京都社会保険労務士会諸会議の結果について
- ロ. 部会並びに委員会の活動状況について
- ハ. 第4回研修会の結果について

(2)協議事項

- イ. 第3回正副支部長・幹事・監査会並びに忘年会の開催について
日時 平成2年12月12日(水)17:30
- ロ. 第5回研修会並びに新年会の開催について
日時 平成3年1月10日(木)13:00
場所 電設健保会館
研修会終了後引き続き、新年賀詞交歓会を行う。

等を協議し決定した。

新しく当支部会員になられた方を紹介します。

入 会 年 月	氏 名	開業・勤務等別	備 考
平成2年8月	佐々木 高恒	勤務等	文京支部より
平成2年9月	高橋 美貴子	開業	
平成2年10月	石井 弘	勤務等	
"	高澤 留美子	"	
"	西脇 秀明	"	
平成2年9月	佐川 幸也	勤務等	他県より転入
平成2年10月	多久和 弘一	開業	

会 員 異 動 状 況

(単位：名)

項 目 地 区	平成2年8月31日現在			異 動(増減)			平成2年10月31日現在		
	開 業	勤 務 等	計	開 業	勤 務 等	計	開 業	勤 務 等	計
麴 町	42	139	181	△1	△1	△2	41	138	179
神 田	59	124	183	4	△2	2	63	122	185
日 本 橋	32	104	136	0	0	0	32	104	136
京 橋	45	99	144	0	△2	△2	45	97	142
合 計	178	466	644	3	△5	△2	181	461	642

あ と が き



広報委員

島 田 久

◎昨年の年初には、経済大国日本は、円・株・債券のトリプル安に見舞われ、大混乱の幕開けとなりましたが、年央にはやや回復基調となり、明るい日ざしが見え始めました。しかし、それも束の間。8月にはイラクの侵攻による原油高が加わり、株価は一段と下落し、日本経済の先行きに暗い影が投じ始め一抹の不安が生じました。

◎わずか一国の暴挙に全世界の人々がこれ程までに動揺したことは、かつてなかったことでしょう。また、全世界の人々が心を一にして解決に努力しているのも、平和を念ずる強い正義感の現われでしょう。

◎さて、今年は…。皆様には、自宅で、旅先で、あるいはスキー場で新年を迎えられ、健康と平和を念願されたことと思います。

◎本年も、皆様のご期待に添う紙面づくりに努力してまいりますので、前年同様ご指導、ご愛顧のほどよろしくお願いいたします。